有史１０００年の文化遺産　足次山神社

郷社だより

発行所：郷社足次山神社
格　式：式内社（郷社）
認　証：１２９５号
神　官：山室晶史宮司
総代長：大久保克朗
〒７１５－００１９
岡山県井原市井原町２５

春季大祭特集

優雅に巫女舞

好天の下で春季大祭

榊の舞を奉納する倉掛と夏目の巫女＝４月４日足次山神社拝殿

井原に春の訪れを告げる郷社まつり（足次山神社春季大祭）が４月４日、好天の下で執り行われ、倉掛夏目の氏子や市内外の人々で賑わいました。

本綾子宮司が打ち鳴らす太鼓に合わせて巫女が鈴や扇、榊を手に優雅な舞を奉納すると、アマチュアカメラマンらが熱心にその様子を収めていました。

参道では、５～７分咲きの桜や露店が、郷社まつりならではの風情を漂わせていました。

《巫　女》
佐藤　春歌（夏・小４）
佐藤　美春（夏・小４）
西山麗乃亜（倉・小５）
花本葉久実（倉・小５）
黒崎みのり（夏・小６）
新谷　未遥（倉・小６）
黒崎ひかる（夏・小６）
藤岡　真帆（夏・中３）

参道の桜は７分咲き

午前10時から山室晶史宮司による祭典が執り行われ、倉掛と夏目の少女８人による巫女舞が始まるころには参拝客も増加。

やがて高山千義神社の岡の桜や露店が、郷社まつりならではの風情を漂わせていました。

《巫　女》
佐藤　春歌（夏・小４）
佐藤　美春（夏・小４）
西山麗乃亜（倉・小５）
花本葉久実（倉・小５）
黒崎みのり（夏・小６）
新谷　未遥（倉・小６）
黒崎ひかる（夏・中３）
藤岡　真帆（夏・中３）

戦没者を追悼

忠魂碑前で慰霊祭

大正12年10月に建立された忠魂碑前での戦没者慰霊祭は、同日午後１時から執り行われました。

郷社足次山神社では毎年、春季大祭に慰霊祭を実施しており、歴代の井原市長らが出席してきました。

西江原町賀山の惣台八十八さん（72）は「時代の流れとともに遺族関係者も減ってきていますが、できるだけ出席したい」と話していました。

旧井原市戦没者の連名碑は３基

井原市戦没者碑文

脇にある連名碑（昭和45年10月建立）には「今日、日本の繁栄を静かに顧みるとき、その陰に幾多の戦役において身命を国に捧げられた人々を忘れることは出来ない。ここに勇士の芳名を刻み、その功を永遠に伝える　井原市長　山岡昇」と刻まれています。

旧井原市戦没者１３７９人の内訳は次のとおり。

木之子地区＝１１６名
県主地区＝８１名
井原地区＝３９４名
稲倉地区＝１０４名
大江地区＝８２名
高屋地区＝１５９名
青野地区＝８３名
野上地区＝６１名
西江原地区＝１６２名
荏原地区＝１３７名
※井原地区は現在の出部地区を含みます。

各祈願は郷社で

郷社足次山神社では新年祈願をはじめ厄除け、七五三、旅立ち、足の安全、身体健全、初宮参り、家内安全、社運隆盛、交通安全、合格祈願、良縁などの各祈願を受け付けています。

郷社の阿須波大明神（男神）は「足の神」「足場の神」「旅立ちの神」。一方、安須波大明神（女神）は「五穀豊穣の神」としての御利益があるとされています。

連絡先＝山室晶史宮司
０８６６-７２-１４３８
連絡先＝大久保克朗総代長
０８６６-６２-０４２８
０９０４８４０５８１１
■郷社足次山神社
http://kurakake.sakura.ne.jp/gousya2.html

課題山積

樹木半伐採と社務所建替え

クスノキの巨木などは神苑を引き立たせるが落ち葉の量も多い＝4月7日

足次山神社の樹木を適当な高さに切る半伐採（枝打含）を行った場合、その費用は約五百万円（内処分費約百万円）に上ることが昨秋、専門業者の見積もりで分かりました。

神苑には現在、サクラやクスノキ、スギ、カシなど42本の木々があり、これらの大量の落ち葉清掃は、草取りとともに、近隣住民や神社関係者の大きな負担になっていることから、倉掛夏目の氏子が拠出している神社費収入を考慮した対策が求められています。

また、大正時代に建てられた社務所は老朽化が進み「百年に一度の建替え時期になっている」との声も。

神社関係者は「課題解決はいま生きている人たちにしかできません。過去にはさかのぼれず、未来に禍根を残す無策も賢明と申せません。千年の歴史を誇る文化遺産・郷社足次山神社の土地１４６０坪は、地元の共有財産。今後とも維持管理へのご理解とご支援を賜りたい」と協力を求めています。

神社費据置

自治会へ集金要請

見学会の実施も検討

倉掛夏目の自治連合会を通して各戸へ依頼している神社費は、本年度も据え置き１３００円。

夏目は自治連合会担当役員が各組自治会長宅へ出向き、倉掛は４月の自治会予算総会の場で各組自治会長へそれぞれ集金を依頼する予定となっています。

現在、倉掛２３３世帯、夏目２５６世帯と両区で４８９世帯あり、昨年度の神社費収入は56万円。

一方、支出は祭典費（神楽費含む）や宮司報酬、建物保険料だけで計65万円。

新旧役員らは「今の収入では運営が成り立ちません。見学会を実施するなどして郷社の現状を知っていただき、氏神様の存続に必要な神社費をお願いしたい」と話しています。

総代 敬神会が一新

大久保総代長ら21人

川相肇総代長（倉掛）らの引退に伴い、足次山神社の役員が今年４月から大きく代わりました。

総代は再任１人、新任13人の計14人で、新総代長は大久保克朗氏に決まりました。総代及び敬神会員は次のとおり。

総代＆敬神会

総代長　大久保克朗（倉）
副総代　川相　登（夏）
副総代　川相　益一（倉）
会　計　河合　謙治（夏）
会　計　谷　和政（倉）
会　計　水原　正博（夏）
会　計　松井　憲司（倉）
書　記　細羽　正敏（倉）
理　事　柳本　忠男（夏）
理　事　立石　泰之（夏）
理　事　山室　敏朗（夏）
監査役　山岡　淳志（倉）
監査役　徳永　晃（夏）
広　報　渡辺　研一（倉）
敬神会　佐能みどり（倉）
敬神会　岡本　充恵（夏）
敬神会　村上　博美（倉）
敬神会　藤井　秀子（夏）
敬神会　山岡　朗子（倉）
敬神会　佃　真理子（夏）
敬神会　渡辺　元子（倉）

行　事　予　定

5/ 5 日　境内清掃　午後１時～
6/ 2 日　境内清掃　午前８時～
7/ 6 土　足次山神社役員会
7/ 7 日　境内清掃　午前８時～
8/ 4 日　境内清掃　午前８時～
9/ 1 日　境内清掃　午前８時～
10/ 5 土　足次山神社役員会
10/20 日　当番祭
（区当番は倉掛地区）
（新講当番）
10/20 日　秋季大祭準備・境内清掃
10/27 日　井原町秋季大祭
11月中旬　七五三祈願祭（日曜日）
12/ 1 日　境内清掃　午後１時～
12/29 日　越年祭、元旦祭準備
※境内清掃は倉掛・夏目全戸対象
※役員会は午後７時～つどえ～る

郷社の歴史（1）

千年前の和歌

元芳井教育長　篠原国夫氏の説

ことしより数をかそえて
君がため八千代をつまむ
くらかきの山

◇　◇

郷社境内の歌碑に刻まれている和歌である。読人は内蔵権頭備中国主基善滋朝臣為政で、平安朝の天皇に仕えた高級官吏のお公卿さんである。ときも同じ後一條の御代長和5年（一〇一六年）11月の大嘗祭の和歌集に載せられている。

いったいこの歌は何を詠んだのだろうか。主基（すき）というのは天皇に貢ぐための米を作る稲田の管理を司る朝廷直属の役所、その長官を主基と云った。

稲は水草でありながら、水はけがよくないと美味しい米は出来ない。倉垣（倉掛）のデルタは砂地で、吉井川（小田川）の水は豊富で水利の便は申し分ない。特別味の良い上々米で評判であった。人びとは申し合わせて天皇に献上した。後一條天皇は殊の外お気に召され、勅令によって倉垣の里を斎田と定められ、備中国主基を置かれることになった。

「今年から天皇のため千代八千代まで米作りに励み、美味しい米を山のように積み重ねてほしいものだ」と善滋為政長官が祝辞とともに住民を励ました。この和歌は大嘗祭で天皇に捧げられた。

ところでこの歌の下の句「くらかきの山」について諸説があり、山のない所にた事か、「くらかきの里」の誤りであろうという説。昔は小高い砂山だったのであろうという説。いやそうではなく…。ともあれ郷社の境内に立つこの碑は、千年前の井原発祥の姿をいとも鮮やかに物語っている。

（史談いばら掲載の篠原国夫氏の原稿より抜粋＝平成11年1月取材）